

汎用樹脂など中東品輸入

昭和興産インドネシア



矢尾 智 社長

昭和興産インドネシア(矢尾智社長)は主力の界面活性剤、塗料原料、エレクトロニクス関連の輸入事業に加え、新規ビジネスの創出に力を入れている。天然樹脂の輸出が順調に拡大しているほか、近く汎用樹脂などの中東品輸入を開始する。幅広い商材、事業展開で成長を加速する。

同社は2014年に設立、プカシ県デルタマス地区に本社オフィスを置く。界面活性剤、ウレタン原料、塗料原料などの輸入販売をメインに手がけ、消費財などの市場成長を取り込み販売量を伸ばしている。

為替変動などのリスクヘッジのため、インドネシア品の輸出にも力を入れている。スマトラ島やカリマンタン島などで産出される天然樹脂タマル、天然ゴムやラテックスなどの商材が好調に推移し

ている。タマル樹脂は塗料やインキの原料などに用いられ、粘着付与機能を有する。引き続き販販を図ることも、将来的に加工を手がけ付加価値を高めて供給することも視野に入れる。

グループ拠点との連携も強化している。タイ拠点で大日化学工業およびフォルモサ・オーガニック・ケミカルとの3社協業により生産する金属石けんをインドネシアで販売、実績を上げている。

新たな商材として、中東から汎用樹脂など石油化学製品を輸入しインドネシアで販売する。安定調達のため新たな供給ソースを求める需要家に、価格競争力の高い中東品を売り込んでいく。

さらに、新規に繊維用薬剤関連ビジネスを立ち上げる。日系メーカーがインドネシアで委託生産に乗り出す予定で、販売・物流業務などを請け負う計画。今後、同国に拠点を持たない日系企業と現地委託製造メーカーとのマッチングの展開も狙う。また、樹脂コンパウンドや衛生材用フィルムなども商材に加える方針。